



赤ちゃんのはなし

マリール・ホール・エッツ 文・絵
坪井郁美 訳

福音館書店 1982年 1400円

小さな生命のもとがお母さんのお腹のなかで育ち、赤ちゃんとして生まれるまでが、白黒のさし絵とともに日を追って丁寧に書かれています。何十年も何百年も続いていく生命誕生の神秘を、科学的に、子どもにわかりやすく書いた本です。



いつもちくくのおとこのこ

—ジョン・パトリック・ノーマン・マクヘネシー
ジョン・バーニングサム 作
たにかわしゅんたろう 訳

あかね書房 1988年 1456円

ジョン・パトリック・ノーマン・マクヘネシーは、お勉強しに出かける途中で、ワニやライオンに出くわしたり、高潮にさらわれそうになったりして、いつも遅刻してしまいます。しかし、先生はまるで信じてくれずジョンに罰を与えます。ある日、なにも起こらずジョンが遅刻しないでたどりつくと、先生がゴリラに捕まっていた。それを見たジョンは…。

うまかたやまんば

おざわとしお 再話
赤羽末吉 画



福音館書店 1988年 1200円

むかし、ひとりのうまかたが、峠でやまんばに襲われました。やまんばはうまかたの積み荷を食い、馬の足を1本食い、2本食い、最後は馬をまるごと食ってしまいます。うまかたは必死で逃げて、一軒の家に逃げ込みます。ところが、それはやまんばの家だったのです。